第171号

発行責任者:阿部義浩 発行者:エフコムBC広報





野球で福島を元気に! 繋げよう絆・広げよう地域の輪

エフコムベースボールクラブ

第19回JABA毎日新聞社杯社会人選抜野球大会

◇試合結果◇

一回戦 VS ALL北嶺

(6対1)勝利

準決勝 VS コットンウェイ硬式野球倶楽部

(8対3)勝利

勝 VS オールいわきクラブ

(7対2)優勝

エフコムBC 主将の八百板 飛馬 外野手と 最高殊勲選手賞の 松嶋 拓郎 内野手より本大会のコメントをいただきました!



決

八百板 飛馬 外野手 (主将)

今大会も熱い応援をありがとうございました。

多くの方が球場へ足を運んでくださり、あらためてこのチームで日本一になりたい!と感じました。 試合結果も優勝で終わることができ嬉しく思います。来年も全国大会に出場して日本一になれるよう頑張っていまいます。サポーターの皆なんとともに更に高みを目指していければと思います。

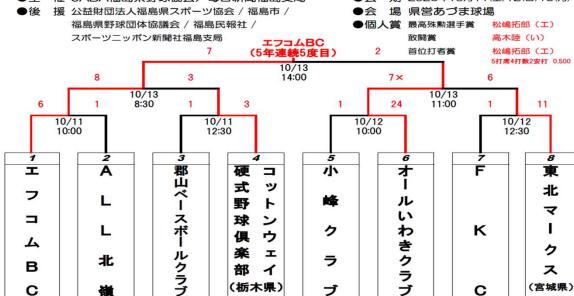
あらためまして今大会のご声援ありがとうございました。



松嶋 拓郎 内野手(副主将)

天候の悪い中球場まで足をお運びいただいた方々、応援ありがとうございました! 大会も東北会長旗を残し僅かになりました。次の大会も全力でプレーさせていただきます。 引き続き応援よろしくお願い致します。

第19回JABA每日新聞社杯社会人選抜野球大会 主 催 JABA福島県野球協会/毎日新聞福島支局 ●会 期 2025年10月11(土) 12(日) 13(月)







エフコムベースボールクラブ

準決勝 VS コットンウェイ硬式野球倶楽部

天候や熊の出没が心配される中、大会は予定通り開催された。

一回戦のALL北嶺戦を、照井、長根の投手リレーと、佐藤敬太、吉田のマルチヒットなどで勝ち上がり2日後に行われた準決勝、相手は栃木県から出場のコットンウェイ硬式野球倶楽部。互いに闘志溢れるプレーで序盤は緊張感の漂う雰囲気の中で攻守が進んだ。

試合は4回から動き始めた。表の攻撃で先頭の伊藤海斗が出塁、続くベテラン河野がセンターオーバーの2塁打を放ち1点を先制した。その裏の守備、先発ピッチャー新人山上の剛速球が相手打線に捉えられ逆転を許し1点のビハインドとなった。

しかし、次の5回表に味方打線が火を噴いた。9番島崎のライト前、盗塁後に茨木、大川も安打でつなぎ、八百板卓丸がレフトオーバー、吉田もセンター越えにタイムリーを放つなど打者一巡の攻撃で一挙6点を奪取した。

5回裏からは小川が2番手として登板し3回1失点の好投。8対3で決勝へコマを進めた。

山上 遼真 選手 <先発> 投手/出身校:弘前聖愛高校 ⇒ 仙台大学



安藤 侑耶 選手 補手/出身校:聖光学院高校



河野 勝人 選手 内野手/出身校:聖光学院高校 ⇒ 国士舘大学



小川 佳斗 選手 投手/出身校:八戸学院光星高校 ⇒ 八戸学院大学







エフコムベースボールクラブ

決勝 VS オールいわき

決勝は初回表に新人小口が自慢の直球をオールいわき打線に弾き返され2点を先制される展開。しかし準決勝に続き、取られたら取り返すエフコム打線が本領を発揮。昨年の課題であった先制された後の打線の立て直しが図られ今回の勝利につながった。2回表、先頭の7番伊藤琉晟がライトへ目の覚めるヒットを放つと打線全体にエンジンがかかった。9番川鍋が新人とは思えぬ鮮やかな流し打ちを見せると、1番松嶋が待望のホームランを放つ。更に吉田がライト越え、伊藤海斗にレフトオーバーが飛び出しこの回4点を取って逆転に成功。

新人の小口は2回以降得点を許さず3回でマウンドを2番手の渡邉拓海にスイッチ。渡邉は4回、5回を被安打1で4奪三振の好投。6回表には川鍋が3安打目で出塁後、1番松嶋が完璧なホームランを再び放ち試合を決定づけた。6回、7回は抑えの大内が被安打0の3奪三振。7対2で本大会5連覇を果たした。

川鍋 優真 選手 内野手/出身校:花巻東高校 ⇒ 盛岡大学



小口 優太郎 選手 <先発> 投手/出身校:東海大浦安高校 ⇒ 東海大学



岩崎 凛太郎 選手 内野手/出身校:安達高校 ⇒ 東北公益文科大学



松嶋 拓郎 選手 内野手/出身校:文星芸大付属高校 ⇒ 仙台大学



応援ありがとうございました!